

福岡県の主な農産物の生産状況

令和3年6月15日現在
(専技情報より抜粋)

◇早期水稻（夢つくし、コヒカリ）◇

田植え後、低温の影響で初期生育はやや遅れ、平年に比べて、草丈は低く、茎数は少ないです。

スクミリンゴガイによる食害は少ないです。既には場内においてトビイロウンカの発生が確認されています。

4月下旬植えの穂肥施用時期は6月25～30日頃で、出穂期は平年並み～やや遅い7月中旬の見込みです。

中干しの強さは田面が黒乾する程度としましょう。

穂肥は、出穂前20～18日頃（幼穂長2～5mm）に、葉色3.5程度を基準施肥量として施用しましょう。

◇普通期水稻（夢つくし、元気つくし、ヒノヒカリなど）◇

育苗期の多雨と日照不足の影響により、一部で苗いもちが発生しています。

5月中旬～6月上旬植えは、田植え後の多雨と日照不足により、軟弱徒長気味の生育となっています。

麦収穫後の田植えも始まり、平坦地の「夢つくし」は6月上中旬、「元気つくし」は6月中下旬、「ヒノヒカリ」は6月下旬が最盛期となる見込みです。

ウンカ類の飛来時期が平年より4週間程度早く、飛来量も多い見込みです。

5月植えで雑草が多い場合には、中後期除草対策を実施しましょう。

大豆後は、基肥を減肥しましょう。

田植え後は浅水管理を徹底して、活着促進と初期生育の確保を図りましょう。

スクミリンゴガイ、ウンカ類への防除対策を徹底しましょう。

◇麦類◇

小麦の収穫は、6月10日までに終了しました。

穂数が平年並～やや多いです。収量は平年より多く、前年並みの見込みです。

品質は、梅雨入りが早く、降雨による倒伏がみられたため、一部地域で昨年より低下する見込みです。

ほ場への有機物還元のため、麦わらはすき込みましょう。

調製のふるい目は、小麦2.2mmとしましょう。

◇イチゴ◇

2年度産の出荷は、5月下旬でほぼ終了しました。

4番果房は、生育のバラつきが大きく収穫も集中せず、4月下旬以降の出荷量は前年より少なく推移しました。総出荷量は前年よりやや増の10,582t、平均単価は概ね前年並の1,496円/kg、販売金額は概ね前年並の158億3千万円となりました。10a当たり販売金額は過去最高の513万円でした。

親株からの子苗の発生は、4月の乾燥でやや遅れたほ場もありましたが、採苗作業は5月中旬から開始されています。ハダニ類、うどんこ病、炭疽病などの発生がみられます。

採苗は、6月中旬までに終了させましょう。

ハダニ類、うどんこ病、炭疽病などの病害虫の防除対策を徹底しましょう。

◇温州ミカン◇

露地栽培は二次生理落果期で、落果量はやや多いです。結実は、産地・園地ではばらつきがみられますが、全体では極早生は前年並み～やや多い、早生は並み、普通は並み～やや少ないです。

病害虫の発生は、灰色かび病が散見されます。

今後、二次生理落果後の着果状況に応じて、適正着果量の確保、黒点病など病害虫対策を徹底しましょう。着果状況を確認し、着果が多い園地では、摘果を徹底しましょう。

品質向上策として、シートマルチの被覆準備、排水対策を行いましょう。

病害虫では、黒点病、カイガラムシ・ハダニ対策を徹底しましょう。

◇キウイフルーツ◇

「ヘイワード」の開花盛期は5月2～4半旬で前年より5～8日程度早く、平坦部と山間部の開花期のばらつきが大きく、開花期間が長かったです。

5月中旬の降雨の影響で、「ヘイワード」の一部花腐れ細菌病が発生し、着果数はやや少ないです。「甘うい」の着果数は並みからやや少なく、「レインボーレッド」は並みです。日照不足の影響で果実肥大は並み～やや小さいです。

病害の発生は、花腐れ細菌病以外に灰色かび病が一部発生しています。また、5月中旬の強風、降雨により、かいよう病が散見されます。

早急に摘果を行い、適正着果量に調整しましょう。

梅雨期の排水対策、果実軟腐病等の病害虫対策および梅雨明け後の土壌乾燥対策を徹底しましょう。

◇トルコギキョウ◇

1～5月に出荷される冬春出しは終了しました。期間中の出荷量は前年よりも多くなりましたが、平年より少なかったです。5月の販売単価はコロナ禍でしたが、「母の日」需要もあり、1～5月の平均単価は前年、平年より高くなりました。

6～8月出しは順調に生育しており、6月下旬から出荷量が増加する見込みです。

6～8月出しは適宜換気を行い、過剰なかん水を控え、茎葉の軟弱化を防ぎましょう。

アザミウマ類の発生が多いため、対策を徹底しましょう。

◇茶◇

一番茶の出荷は5月末で終了しました。二番茶の摘採のピークは、平坦地では6月1日頃、山間地では6月10日頃で例年よりも早いです。

二番茶は、適期の摘採に努めましょう。

ハダニ類の発生が多いので対策を徹底しましょう。また、梅雨入りが早く、降雨が多くなるので、併せて炭疽病の対策を徹底しましょう。

◇肉用牛◇

5月の和牛枝肉価格は、コロナ禍の影響は昨年度ほどでないため前年度より高値でした。3度目の緊急事態宣言延長により消費低迷したことで前月比92.2%と価格は低下しました。交雑種主体の省令価格は、和牛と比べると値ごろで小売を中心に引き合いが集中して堅調に推移しました。

暑熱ストレスを軽減するため、送風や消毒等を徹底して疾病予防や健康管理を徹底しましょう。

また、ビタミン、ミネラルの増給を行いましょう。